

題目 総合的な学習の時間の指導に求められる教師の新しい役割についての一考察

—環境学習への取り組みを中心に—

指導教官 山口健二

発表者 藤岡宏旨

・ 題目設定の理由

2002年より完全実施された「総合的な学習の時間」は、教科の枠にとらわれない、横断的・総合的な指導が教師に求められる。この「総合的な学習の時間」の実施は現場教師に、様々な新しい役割を生み出した。なかでも、特に環境学習はその性質上、参加・体験型、問題解決型の学習で、教室の中だけで活動していれば良いものではない。教師、地域、専門家等が協力し、授業を計画し、様々な情報メディアを利用し、学校の外に出て行くことが求められる。環境学習は従来の教師の役割を変える部分が大きく、「総合的な学習の時間」における教師の新しい役割について考える好材料であると考えたため本題目を設定した。

・ 論文構成

はじめに

第一章 総合的な学習の時間の誕生

第一節 中央教育審議会答申

第二節 新学習指導要領にみられる総合的な学習の時間の取り扱いと教員の反応

第二章 総合的な学習の時間の実践例：環境学習の取り組み

第一節 環境学習の流れと現代的意味

第二節 実践例

第三章 総合的な学習の時間の指導に求められる教師の役割についての考察

第一節 実践例にみられる教師の役割

第二節 総合的な学習の時間の指導計画の一例

第三節 総合的な学習の時間の指導に求められる教師役割

・ 論文の内容

<第一章>

本章では、新学習指導要領と教師の意識調査から読み取れる教師役割について考察した。新学習指導要領では、「総合的な学習の時間」の「目標」や「内容」、「内容の取り扱い」は示されていない。それだけに、何を題材にどのように授業をすればよいかという、教師の創造的な取り組みが必要不可欠である。

2000年7月に実施された、大学付属小・中学校や文部省の研究開発学校の教師対象の「新教育課程への教師の意識変化に関する調査」の中に、「総合的な学習の時間が創設されたが、あなた自身は新教育課程で教師のあり方が変わったと思いますか」という項目がある。結果は、「やや変わった」、「かなり変わった」の合計であるが、小学校77%、中学校74%であった。さらに、総合的な学習の時間にかかわる内容の項目を見ると、「ややそう思う」、「かなりそう思う」の合計であるが、「国際理解、環境、福祉、健康などの課題についての情報がほしくなった」、「コンピュータやインターネットの活用を今まで以上に考えるようになった」、「地域の人材などに学校教育に参加してもらいたくなった」、「地域の人たちとの交流を深めたいくなった」という項目に対しては、小・中学校ともに約70から85%である。さらに、「学校の同僚と連携を一層強めたいと考えるようになった」は、小・中学校ともに70%近い。これらの結果は、教師は、様々な現代的課題、情報活用などの知識や能力に興味・関心が向くようになり、また、地域や教師の連携を必要にするようになったことを示している。

<第二章>

本章では、総合的な学習の時間における環境学習の実践例として、岡山市立平福小学校第六学年「水と地球と私たち」、東京都北区立北園小学校第五学年「グリーンコンシューマーになろう」の取り組みから、教師の役割について考察するための参考とした。岡山市立平福小学校の実践では、研究グループの編成やチームティーチングによる支援、多様なメディアの利用、他地域の友達との意見交流等がおこなわれていた。また、東京都北区北園小学校の実践では、授業中での教師の子どもへの関わり方や、訪問先への事前の連絡、地域の工場やスーパーマーケットなど学校外の学習環境が利用されていた。

<第三章>

本章では、第二章でみた実践例と私が組み立てた仮想授業にみられる教師の役割について考察し、総合的な学習の時間に求められる教師役割について以下のようにまとめた。

現代的な能力の形成・・・教師自身が、国際理解、環境、福祉、健康などの現代的な課題について敏感になり、情報を集め知識を蓄積していくことと、情報メディアを十分に使いこなせる能力を高めること。

事前の準備・・・授業を行う前に、事前の下見や教材研究をしたり、安全面の配慮のための補助を頼める保護者や地域住民を探したり、専門家との事前の打ち合わせ、訪問場所などのアポイント等をとったりする。

チームティーチング・・・多様な活動、グループ学習、個々の学習活動を支えるための指導形態として、チームティーチングを組織する。チームティーチングの形態は、子どもたちの学習の様子や学習の内容等によって充分検討した上で組織する。

個別学習とグループ学習・・・子ども個々が問題解決や調査をおこなう時は個別で活動させ、調査内容が同じような子どもは、課題別や目標別のグループを編成するなど、子どもたちの活動内容に応じた学習形態を構成する。

教師集団形成と連携・・・ナレッジマネジメントの観点から、教師、専門家、地域住民、保護者、ボランティアが集団を形成し、情報交換や連携をしなければいけない。どんな目的で、どのような支援や協力をどのような時にしてもらうかを、事前によく話し合い打ち合わせをしておいて、役割を明確にしておかなければならない。

教師の支援・・・教師は授業中、子どもたちに知識を教え込むのではなく、子どもたちと話し合い共同決定したり、活動を支えたりというような、サポーターとしての関わり方を続ける。

興味関心への配慮・・・長期にわたる活動が予想されるので、子どもたちの興味・関心を持続させるために、教室や展示コーナーでの掲示、長期休暇や休日等の課題等、それから学習の成果のまとめ方を工夫する。

・今後の課題

本論文では、総合的な学習の時間の環境学習により、教師の意識や役割は大きく変容してきたことがわかった。しかしながら、実際に自分が授業を行うとなると本論文では考えることができなかった教師役割も多いかもしれない。また環境学習以外の領域では違った役割もあると思う。これらを、さらに考えていくことが今後の課題である。

・主要参考文献

有園格・児島宏 1999,『小学校の総合的な学習』ぎょうせい。
片山宗二・木原俊行 2001,『新しい学びをひらく総合学習』ミネルバ書房。
高階玲治 2001,『総合的な学習を総点検する』明治図書出版。